

おしろい狐 (六) (男四米)

帝キネ

時代映畫

原作脚色並監督者 壽々喜多呂平

撮影者 三木茂

主要役割

長東田紀三	吉頂寺光
角會縫之助	金井龍三郎
白狐のお銀	望月禮子
是枝乙馬	身波邦之介
みつ江	加茂川静子
篠崎源八郎	秋羽陽之助
おさんほお町	藤原八洲子
奴の金平	大丸巖

〔略筋〕江戸の末期、朧夜月の白さに、ほだされた長東田紀三のロマンチックな心の裡に、ふと忍び込んだ仇な女があつた。その女の名は白狐のお銀、だまし合ひや曖呵の河にかけては決して人後に落ちない、かな女ではあつたが、男の餘りの純情さ、途な戀にほだされる、穢れた過去を持つ自分故、拒まうとあせり乍らにも、男の魅力はとうともならず、女は戀に弱

いもの。〕
 壽々喜多呂九平が曾てマキノにあつて書き卸した金森萬象の傑作「露路裏の鼠賊」と悪童連に取材した點、これは一脈相通する所を持つものであるが、面白さの點に於ても、スマートな點に於ても到底二年前の前作には及びもつかない。第一これは種々と盛られた事件の連鎖が頗るアイマイたるもので、相當面白がるべき登場人物の個々の性格など全然死んで終つてゐる。最も悪いことは結末をバサリと殺させて、ウレムヤに葬つて終つたことである。昔鳴らした才人壽々喜多呂九平の世に容れられない慘な姿。メカホンを手にしてからの呂九平の二三の作品は全部が失敗に歸して居るに兆して、私は才能ある彼に、慌しくペンとメカホンの兩刀を使はせるよりも、餘裕を充分得て昔の如き才氣煥發彼一流のシナリオを綴つて貰ひたいものと思ふ。

これに主演する望月禮子、彼女の凄麗さには愈々磨きがかけて來た。さらりと流した櫛巻きに、惜し氣もなく白肌をヌグと露出して、凄いにらみ、凄いな、この映畫の白眉である。彼女を除いて他の俳優は悉く未完成。

池田 重近
 興行價値——添物の下。(五月二十一日常盤座)